神戸新聞 2022年09月06日 火曜日 面名 ＳＡ １３ 19ページ

「　　、　　」

柔道女子52キロ級で昨夏の東京五輪を制した阿部詩(22)＝日体大、夙川高出身＝が共同通信のインタビューに応じ、1カ月後の世界選手権（10月6日開幕・タシケント）へ抱負を語った。「お家芸」のヒロインは2024年パリ五輪での2連覇を目指し、強い決意を打ち明けた。

世界柔道、来月6日開幕

52キロ級敵なし「自分に打ち勝つ」

―19年以来3度目の世界選手権優勝を目指す。

「パリ五輪に向け、重要な大会。しっかり優勝して次につなげる。見ている人が『これが阿部詩か』と、無言でうなずくような柔道を見せたい」

―東京五輪から1年。

「周りからの見られ方が変わった。本当の世界一になったと実感している。気持ちの疲れは多少はあるが、それ（闘うこと）が使命なので嫌とは思わない」

―独走状態が続く。

「52キロ級では今、私が追いかける選手はいない。本当に毎日が自分との闘い。自分自身に打ち勝って、日々成長していかなければいけない。女王の余裕はあまりない」

―進化した部分は。

「試合への心の持っていき方はすごく成長した。五輪の大舞台で、絶対に勝たないといけない重圧を背負って闘ったことにより自信がついた。試合に対する恐怖心があまりなくなり、楽しめるゆとりが出てきた」

―昨秋に両肩を手術。

「階段を下りたり、買い物袋を持ったりするだけで肩が抜けかけることがあるほど状態が悪かった。この苦しみを持ちながらパリ五輪に挑戦はできないと考えた」

―迷いはなかったか。

「手術は初めてで、本当に元の肩に戻るのかという不安はあった。それでも、はい上がれる力は持っていると思っていた。1年かかったが、最近は普通に戻ってきた」

―五輪で同日優勝した男子66キロ級の兄、一二三(25)＝パーク24、神港学園高出身＝も、さらに力を付けている。

「すごく余裕があり、強くなっている。自分の柔道を貫けば、もう負けないのではないか。兄の方がやっぱり先を行っているなと実感する」

―22年のテーマに「勇猛果敢」を掲げた。

「今年は何事も勇気を持って挑んでいきたい。手術からの復帰へ何も分からない状況だったが、漠然と歩みたくなかった。柔道がうまくいかないときも受け止めて進みたかった。ここまで来られたことを考えると、それだけで幸せなのかな」

東京五輪以降の阿部詩

2021年7月	▪東京五輪優勝
9月	▪左肩を手術
10月	▪右肩を手術
22年4月	▪復帰戦も1回戦勝利後に棄権※
	▪世界選手権代表に決定
7月	▪グランプリ・ザグレブ大会優勝

※復帰戦は全日本選抜体重別選手権

五輪後両肩手術、今春に実戦復帰

阿部詩は東京五輪後の昨年9月に左肩、10月に右肩を手術し、切れた関節唇を修復した。パリ五輪での2連覇をにらみ、大きな決断を下した。

試合からは遠ざかり、稽古を再開したのは今年2月ごろ。万全にはほど遠かったものの、世界選手権代表最終選考会を兼ねた4月の全日本選抜体重別選手権で実戦復帰した。1回戦を勝利後に大事を取って棄権したが、代表に選ばれた。

その後の回復は順調。五輪以来約1年ぶりの国際大会出場となった7月のグランプリ・ザグレブ大会は5試合のうち4試合で一本勝ちを収め、盤石の内容で頂点に立った。現在は拠点の日体大を中心に調整している。

インタビューに答える柔道女子の阿部詩

なまえ【　　】

①この記事のメインの見出しを、阿部選手の言葉から15字くらいで付けましょう。
読点（、）を生かしましょう

、

②阿部選手がいま、目指しているものは何ですか

年以来　度目の　　優勝

③心に響いた、阿部選手の言葉を書きましょう

④あなたがいま頑張っていることや、これから頑張りたいことは何ですか